

干潟創造への取り組み ～生き物の生息地復元を目指して～

干潟は生き物の宝庫

干潮時、潮のひいた干潟を歩くと様々な生き物に出会います。河口のヨシ原近くに行けば、アシハラガニの大群やトビハゼが泥の上を跳ねていくのがみられ、砂を掘り起こせばアサリやゴカイなど多くの底生生物が生息しています。春や秋にはハマシギなどの渡り鳥が訪れ、豊富な底生生物をついばんで長い旅のための栄養を蓄えます。

こうした様々な生物生息場である干潟は、近年の沿岸開発に伴ってその多くが失われてきました。そのため、現在干潟復元に向けた事業が各方面で実施されており、当社もその技術開発に取り組んでいます。



ヨシ原周辺に生息するアシハラガニ



水陸両生生活を送るトビハゼ

自然の作用と生き物の生態特性を理解し、干潟地形を設計する

干潟地形の設計にあたっては、まずその場の自然条件を理解することが重要です。干潟はそこだけで成り立つわけではなく、波浪などの物理的外力や土砂供給、河川水など、周囲から様々な作用を受けて成立するためです。また、生き物は種ごとの生態特性に応じ、それぞれに異なる環境条件を好みます。そのため、目標とする種の定着には、その種の特性理解と設計への反映が欠かせません。

創った後のモニタリング

自然は常に変化し、動いています。創造した干潟も、初期の状態が永続的に維持されるとは限りません。そのため、望ましい干潟環境、生物相の維持のためには、適性なモニタリング計画とそれに基づく調査、環境が変化した場合の対応策の準備が重要です。



餌を探して歩くハマシギ